

守谷SA防災拠点災害図上検討会に参画（NEXCO 東日本(株)主催）

首都圏での大規模災害を想定し、NEXCO東日本(株)では、高速道路休憩施設を防災拠点として利用する構想をもっており、常磐道守谷 SA をモデルに具体的検討を進めています。

昨年9月には、実際に救援・支援機関、情報提供機関などが一堂に会した実証訓練が行われました。今回の図上検討会は、その結果も踏まえ、防災拠点としての運用面が検討されました。

ITS Japan は、東日本大震災時に情報提供した通行実績情報の具体的運用や広域災害における関連機関との情報共有のあり方など、災害時の ITS について検討を進めています。今回は、発災直後からの救援機関が必要とする情報と提供方法・提供タイミングなどについて、情報共有するため参加しました。以下に概要を紹介します。

-1) 日時：平成25年 3月 19日(火) 11:00～17:00

-2) 場所：東京臨海防災広域公園 レクチャールーム

-3) 図上訓練の想定条件：

○地震規模： 首都直下地震等 M7.3

(東京都 H24.4.18 公表の「首都直下地震等による東京の被害想定」)

○発災日時： 9月の平日昼間9:00

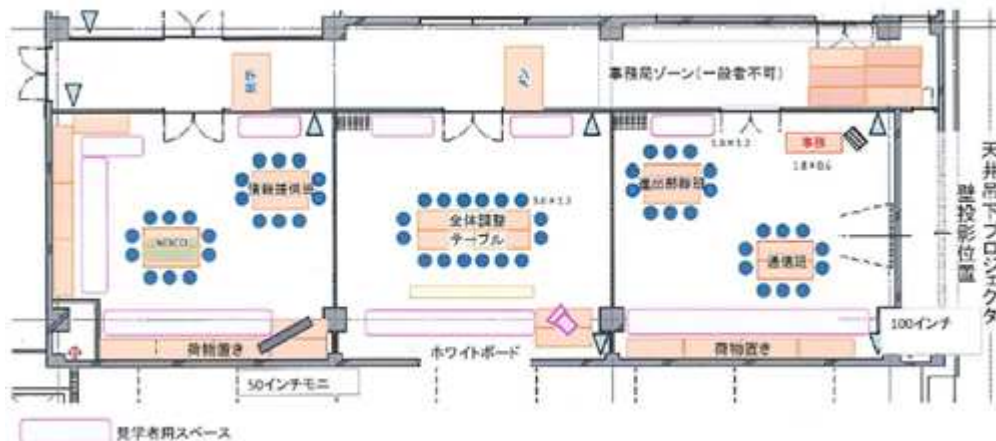
○各種被害： 基本は、東京都被害想定を準用する。なお、季節により変動する被害は、冬18時・風速 8m/s を準用(火災延焼・電話普通率、人的被害等)する。

○進出対象箇所： 各機関が進出する共通箇所を、東京都葛飾区とする

-4) 図上検討の進め方：

・組織代表各一人が全体調整テーブルに座り、発災時から24時間後までの、『各機関の守谷SAの使い方』、『初動時の情報活用』について討議しました。

・参加者は、Ⅰ：進出部隊班、Ⅱ：通信班、Ⅲ：情報提供班、Ⅳ：現地対応班、Ⅴ：コントローラーの5つの班に分かれて討議しました。



全体調整テーブル(中央)での討議の様子



班テーブルでの討議の様子

